

地区長会報

創刊号



発刊にあたって



春日部市地区長会会長
大畑地区長

山崎 攻志

この度かねての懸案でありました、春日部市地区長会会報が発行されることになりました。各地区（自治会）の連合体としての、春日部市地区長会の発足は遠く、市制施行間もなくさかのぼる。三万余りの人口で発足しましたが、それが現在では人口も二十万人を超え、百十九地区を数えるまでに発展してまいりました。思えば時の流れと立地条件のもたらしたものであらうと思われまます。

御承知のように戦前の区長制は行政の末端組織として扱われ、極限られた部分での権限と責務とを課せられていたようで、戦時中は戦争遂行の国策により随分と利用されておりました。

戦争終了後、農地解放、財閥解体等占領政策の一環と思われる国体弱体化の一手法としてか、区長制度は廃止される羽目となる。

困惑した私達は、明治初期の町村制施行以前の末端行政組織、

所詮「村」「町」（後の大字）単位の地区活動組織は一日も欠かせない絶対的必要性から何らかの名を冠して自治会組織を作つて対応して参りました。

その後占領が解けた事を機に、自治組織は所により区、地区、自治会などの名のもとに復活してきました。

市制施行後、春日部市では単位自治会の長を「地区長」と呼ぶことになり、それにより各地区（自治会）、旧町村単位地区長会、春日部市地区長会となつていったようです。

地区はもとより、地域内住民の生活に関する諸々の協議の機関となり、あるいは諸行事の推進体となり、時には市との密接な連携により日常生活に欠くことの出来ない諸般の連絡体ともなっております。このような組織は我々の日常生活に絶対不可欠かと思われさえます。

◇更にあげれば各地区は時に諸々の市単位の役員、例えば、

民生委員児童委員、保護司、健康推進員、クリーン推進員、警察関係では防犯推進委員等推薦母体としても機能し、又社会福祉の為、各種募金に積極的協力等大きくボランティア活動の実践体ともなっております。

もともと自治会はその地域の人達の自由意志により、最も自主的に組織し、運営し、当該地域住民共通の利益の為存在するものではあります。行政もこの組織との連携により、地域との連絡、情報の伝達、意見の吸収等密接不可分の関係にあります。地区長会そのものは独立した住民組織とは言え、同時に行政との相対的立場でなく、二十万市民の一体的な関係において、私達の日常生活の利便の向上に大いに益して居ると自負しております。

市民の皆様、私達地区長会は以上申し上げましたような主旨により、今後とも皆様のため一生懸命努力させていただきますので、一層の御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。創刊のあいさつとさせていただきます。



春日部市長
三 枝 安 茂

春日部市地区長会の皆様におかれましては、日頃より地域コミュニティ発展のためご協力を賜り心から感謝を申し上げます。
また、この度歴史ある春日部市地区長会より会報を発行されますことを心からお喜び申し上げます。

ご承知の通り、本市は先人のたゆまない努力と英知により大きく発展し、二十一世紀に向け「健康で緑豊かな文化創造都市」の建設を目指し諸施策を推進しているところでございます。
しかし、行政を円滑に推進するには、各自治会の代表であります地区長の皆様のご協力なしに実施することはできません。
特に市民生活に連結するゴミの五分別収集、地域防災活動等、皆様のご協力により実施させていただき、よい成果を上げていくところでございます。
また、地方分権が叫ばれてい

る中、時代に即した行政改革を実施すべく昨年制定いたしました「第二次春日部市行政改革大綱」を基に、効率的な行政運営を図るため、四月より機構改革を実施したところでございます。
今、市の人口は二十万人を超え地域における問題も多種多様化しており、各地区長の皆様におかれましては種々ご尽力を賜っておりますが、今後共、地域におけるコミュニティ、地域活性化の原動力として、益々活躍されますことをご祈念申し上げます。
御祝いの言葉とさせていただきます。

地区長会会報発刊に寄せて



春日部市議会議長
白 石 四 十二

春日部市地区長会の会報発刊おめでとうございます。
二十一世紀を目前にした今日、我が国の成長神話にもかかわらず見え始め、今後、諸外国との経済競争に打ち勝って行くために

は、地方分権を含む、行政改革の達成が至上命令となっており
これは、明治維新、戦後の諸改革に次ぐ、第三の改革とまでいわれており、国はもろろんのこと、地方自治体も大いなる変革が求められております。
春日部市におきましても、第二次行政改革大綱を策定し、事務事業の見直しを始め、組織機構の簡素合理化や各種の事務改善など、効率的な行政運営に努めているところであります。
このようなときにあたり、行政と市民とのパイプ役である地

区長会が、さらに木目細かな活動を目指し、会報を発刊することとは、地区長会のみならず春日部市にとりましても、誠に意義深いものであると、満腔の敬意を表するものであります。
末長く市民に愛される会報となりませう、斬新なアイデアを盛り込んだ紙面づくりをご期待申し上げます。
最後に、今回の会報発刊を契機といたしまして、春日部市地区長会が更なる発展を遂げますよう祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

粕壁地区長会の歩み



粕壁地区長会会長
大池地区長
小 林 保

昭和二十九年七月一日町村合併により、春日部市が誕生しました。

当時粕壁町には二十一の町会があり、それぞれに町会長が選出され活動を行っておりました。

その後、横の連絡を密にするため、粕壁地区長会が発足をいたしました。

初代会長には、多田亨氏が選出され、二代目会長には、船田新蔵氏が選出されたところでした。

このころの活動は、地元自治会のみ活動であり、行政との係わりは皆無の状態でした。

三代目の会長は、三枝安茂氏が選出されました。

当時の粕壁地区長会の事務といえは、総会の資料づくり、予算・決算書の作成等でした。

昭和三十四年から、野口秀吉氏が四代目会長に選出され、それまで慣例で行われていた事務・事業を整理し、粕壁地区長会規約を制定したところであります。

当時の規約を見ますと、往時の先輩諸兄の苦勞が偲ばれる思いです。

昭和四十八年には五代目会長として、小林秀蔵氏が選出され昭和五十一年には六代目会長として、松澤森作氏が選出をされたところであります。

当地区長会は粕壁地区を上地区・下地区と二つに分け各々三人づつ役員を選出し運営がなされ、このころより、地区と行政との係わりも活発になってまいりました。

粕壁地区長会は二十四の町会から成り、各会長により構成されておりますが、お互い横の連絡を取りながら、町会内の事業を推進しております。

平成六年に七代目会長として私、小林が選出され、その重責を担うこととなり、微力ではございますが皆様の協力により現在に至っております。

今後とも、地域の皆様と力を合わせ住み良い「まち」づくり邁進してまいりたいと存じます。



幸松の地区長会

現在の幸松地区は、人口、世帯数いずれも市の一割です。

終戦後の発足当時の地区長会は、幸松地区の成り立ちから二十一地区でありましたが、その後二地区が増え今は二十三人の地区長さんから編成されています。

当地区長会の特徴と思われるのは、会の運営上、八丁目・小淵・不動院野・連合（樋籠・柳原・新川・樋堀）・牛島の五地区にグループ分けをし、それぞれの地区に会の理事を置き、その地区の代表を兼ねてもらっています。

地区長会は、それぞれの地区活動が円滑に行われるようお互いが協力し合うことは勿論、幸松地区全体で実施する事業については皆で協議します、その為の会議は適時全体会議と、地区を代表の理事会に分けて行います、地区長全員にはその結果を書面又は口答で連絡します。地区長会としては行政との関連事項の外、次のような幸松地

幸松地区長会会長
小淵追分地区長

飯塚 一夫

区独自の事も関係者の協力のもとに実施しております。

◎主な実施事項

- 一、幸松地区新年名刺交換会
- 二、幸松地区体育祭
- 三、幸松地区ふれあい文化祭
- 四、地区内交通安全対策
- 五、地区内防犯防災パトロール
- 六、地区内環境浄化活動推進
- 七、幸松少年を守る会
- 八、老人会・婦人会活動の助成
- 九、幸松体育振興会助成
- 十、少年ソフトボール大会等の実施。

市全体の発展と共に幸松地区も年々新しいまちに変わっています。私共は時の流れに逆らう事なく常に、あかるく、楽しく、たくましく生きていきます、皆様のご協力をお願いいたします。



若さ溢れる豊春地区

豊春地区長会会長
上大増地区長

本橋 正雄

光陰矢よりも早いと申しますが、私が地区長に推薦されました。早二十年の歳月がたちました。この間色々な事がありました。高度成長に支えられ人口はどんどん増加し、新しく立野小学校・宮川小学校が建設され、豊春に小学校が三校になりました。

先日、立野小学校の二十周年記念式典に出席させていただきました。一時期は県下のマンモ

ス校と言われ、千七百名余、プレハブ教室も十教室も有り、教育委員会では学区の編成替えを行い、適正規模にしようと努力をしております。其の頃は学区審議員をして居りましたのでPTAの皆様と大変議論を致したことが思いかびます。今も千名余りの生徒が居りますが、プレハブ教室もなくなり、歴代立派な校長先生や学校思いのP

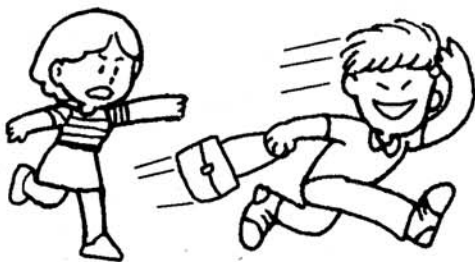
TA会長さんに恵まれ今は市一番の小学校ではないかと自負しています。現在豊春地区には、四万三千七百九十人居ります、世帯数は一万四千四百二十六世帯です。地区別年齢構成の状況を見ますと市で一番若い地区になって居ります。年に一度の体育祭などは、豊春地区が市内で一番盛況であると市長さんも言われて居ります。居住する皆様と調和を図りつつ市側、住民側のパイプ役に徹して、住みよい豊春地区にするよう今後とも頑張る所存です。で、よろしくご指導下さいますようお願い申しあげます。

◎春日部警察署からのお知らせ

春日部市でも、帰宅途中、後方から来たオートバイの二人乗りの男に追い抜かれざま、左手に持っていた現金、キャッシュカードなどの入ったバックを引つたくられるなどの、引ったくり犯罪が多発しておりますので、市民の皆様については、下記のこと特に注意して被害に遭わないようにしましょう。

◎被害に遭わないために。

- 一、徒歩の場合は
 - ・バックは、車道の反対側にしっかりと持つ。
 - ・多額の現金を持ち歩くときは、タクシー等を利用する。
- 二、自転車の場合
 - ・バックを前（後）カゴに入れるときには、荷物の下に隠すようにする。



引ったくりに注意！



内牧地区長会会長
内牧二区地区長
齋藤 茂

発刊によせて

今回初めて長い伝統を有する市地区長会より会報が発行されますことは、当会の大きな前進と受けとめ、なお一層期待を大にするところです。

内牧地区は、昭和十九年に粕壁町と合併し、町名を春日部町とし、昭和二十九年には周囲四ヶ村が合併し、春日部市となりました。

今では地区が増え十地区となつていて、その地区にあっては、行事などを行い地区の人々の融和と協力に力を入れているようです。

内牧地区の皆さんの理解ある御支援と御協力にすがりながら他地区と歩調を合わせて前進することが出来ますことを心より感謝しているところです。



豊野地区長会会長
三本木地区長
中島 光明

二十一世紀の地域自治を目指す

豊野地区は、中世のころは、下総国下河辺荘といい、江戸期に幕府直轄領となり武蔵国松伏領に属し、維新を経て明治五年赤沼、銚子口、藤塚の各村が生まれ、明治二十二年三ヶ村が合

併し、益々田野を開き豊かな様、豊野村とした。千古淀みなく流れる古利根川、庄内古川の潤いをうけ発展した。

昭和二十九年七月粕壁町、豊春、武里、幸松、豊野の一町四ヶ村が合併し、春日部市が誕生。合併時の豊野地区の実勢は（五百二十六戸、三千三百七十二人、五万三千二百六十二平方キロメートル）「豊野村誌」。

この様な変遷の中で、古利根川の清流は人と大地を育くみ行政との係わりの中で三区十五組の自治組織を作り文字どおり一所懸命土地を守り、神仏を心の依り処として息災と豊穰を願い、年中行事の伝統文化の中で自他共存の生活感情を共にしながら地区は結束し、厳しい生活環境を連帯と協調で克服し、幾多の激動期をたくましく乗り越え今日の繁栄の基盤はつくられました。

現在の豊野地区は（五千八百六十戸、一万八千七百八十人）十六地区となり、急速な都市化は生活、教育、環境等に諸問題が山積されましたが、先人諸賢の献身的な活躍と、行政の努力、及び、地域の理解と協力によりおおかた解決され、東武雄都の一面を担う豊野地区となりました。

私達は、この先人諸賢の築かれた偉業を徳とし、この豊野地区が更なる飛躍発展することを願いながら、二十一世紀にあるべき地域自治を模索しつつ、その運営に各地区長、役員さん方は頑張つて居る処でございます。

緑豊かな

私達の町会



宮本町地区長
齋藤 繁

私達の住む宮本町は、戦前戦後を通じて八幡前と云う名で広く親しまれておりました。

昭和二十九年市制施行と共に宮本町と名称を変更し、今年で四十三年目を迎えます。大字粕壁、浜川戸一、二丁目の一部、中央一、二丁目の一部という五つの字名で構成され、新しく来



た方には大変ややこしく思われるでしょう。場所的には春日部八幡神社及び八幡公園周辺から新井家具店周辺と大変緑豊かで、静かな環境に恵まれ、現在三百八十世帯になっております。

町会の行事も年間を通じて数多く、又積極的に推進されています。特に盆踊りや、子供の相撲大会は伝統も古く、その他チビッ子ソフトボール、少年ソフトボール、町会での敬老の集い、友好会、育成会の餅つき大会など多くの行事を通じて子供から高齢者まで幅広く交流を図っている所です。又環境美化とリサイクル活動に力を入れ平成三年一月より回収日を毎月第三日曜日と定め集積所五カ所にて毎回回覧を配布し協力を得て大きな成果を見ています。

このような地域のコミュニティを大切に考え推進し、まとまりの良い町会であることを誇りに思っています。その他町会は十三組に分かれています。その殆どの組が新年会（組の総会）を行い、その席で町会又は市に対しての要望等がある時は、その意を持って市に要望に行き協力をお願いしています。

この様な多くの行事が出来ることは町会全員の御理解と協力、又役員さんの並々ならぬお陰と申します。私も十代にして父を

亡くし、皆様には陰に陽に大変お世話になり、その恩返しのためにもり地域のため、又市との連絡を密にし一生懸命努力を致す所存です。

これからの御指導と御鞭撻のほどよろしく願ひ致します。

私達の地域

活動の紹介



八丁目下組地区長

栗原英之

八丁目下組地区は、幸松地区の古利根川沿いにあり、国道四号線が地区内を縦貫している所にあります。

当地区の世帯数は、約二百五十戸ですが、市制施行当時は、わずか三十戸たらずの地区でした。

当地区は以前より地域活動への住民参加が活発で、住民間の問題もなく、住民相互の親睦も地域活動等を通じて盛んです。当地区の活動は、毎年四月の



総会の開催でスタートします。ここでは、まず、前年度の事業・決算・監査報告等の他、規約の改正等の重要事項の審議が自由に活発に行われます。

また、新役員の選出・承認や新年度の事業計画・予算等の審議決定も行われます。なお、欠席者にも、名簿等を含む総会資料を配布し、ご理解とご協力を戴けるよう努めています。

五月の地区内全域に亘る樹木の害虫駆除薬散布、夏祭りに際しての子供神輿・山車のパレード等、敬老の日の八十才以上のお年寄りの方々への花束贈呈、秋の親睦旅行等を行っています。年が明けると新年会及び古利根川の清掃等を多数の地区民の参加のもとに親睦を深めつつ行っています。

また、年間を通して、役員会を随時開催し地区周辺の交通問題への対応、生活環境整備の検討等の諸活動を行っています。今後共、皆様の深いご理解とご協力の程、よろしく願ひ申し上げます。

私達の町

栄町三丁目



栄町三丁目地区長

赤城臣男

私達の住む町、栄町三丁目は内牧に十地区ある中で、最後に誕生した町です、昭和四十六年に始められた土地区画整理事業によるもので、以来二十五年が経つ新興の住宅街で、住民の多くは勤めの人で占められ、各方面から、周辺を知らぬままに集い出来た町です。

誰もが、生涯の目標とする我が家を持つ事の夢を実現させ、喜びと安堵の中で、各々が移住し、新しい生活が始められ、今では多くのアパートも建ち並ぶ静かな住宅街であります。生活上で何等不便はありませんが、

私達の町

大場地区



大場地区長

山崎 清

移り住んで地盤等に問題の有る事を知りますが、これは行政の手腕に委ねる以外に無く、住民としては、早期に解決されることを、ただ願わざるを得ません。

私達住民は、自らが出来る分野に、積極的に取り組み、他地区と比較することなく、環境浄化等により少しでも明るい街づくりに努めて居ります。居住環境では憩いの場、運動の場となる、又幼児たちの安心して遊べる公園が町の中心にあり、又、公営の保育所、私営の幼稚園もあって、主婦達の買い物等の便にも恵まれ、すぐ近くを流れる隼人堀川の堤防と自然を多く残す内牧方面へ向かっての散策を楽しむことも出来、又鉄道の駅も比較的近くにあります。

間もなく突破するであろう世帯の数も、五百を越す地区となる栄町三丁目のこのごろです。住んで格好の位置、場所にある住宅街であると感ずります。

大場地区自治会は、会員世帯数一千三百五十六戸を有する自治会で、東武線武里駅西口商店会と、四店舗のスーパーマーケットがある商業地域とが一体の自治会である。自治会の誇りは、夏には武里駅前通りで二日間の夏祭り、秋には大場全地区(大場・谷中・駅東、増田新田)の大運動会の開催である。自治会は地域コミュニティの大変重要な組織づくりであり、自治会の活動として一番大切であると思ひ、会員の同意を得て年々予算を増し、会費の有効な配分をして毎年盛大になり良い事だと会員皆様の評価を戴いているところである。運営的には、会費の一部を各ブロックにコミュニティの組織づくりに対する助成を行っている。

当自治会は、前段で述べたように、商店と混在した自治会ではあるが、住民の方々の自治会意識、ふるさとづくりの意識が高く、皆さんそれぞれ忙しい中、積極的に自治会活動へ参加され、地域づくり、心と心のふれあいづくりを行っており我が地区のほこりとする事である。

当面大場地区としては、道路の整備、特に岩槻野田線の県道、

大池どおりが交差する武里団地入り口の五差路の交通渋滞は異常である。また、住居表示、区画整理事業は早期実施が望まれている状況であります。

私達の 豊春地区長会



上蛭田西地区長
飯島 幸助

春日部市地区長会は六地区に大別され、その各地区には地域・環境等に対応して更に小分割され、地区行政を掌握し、各種団体との親睦を図り地区住民の健全な発展と文化的向上に努力し、もって安寧秩序を維持することを目的とする。



示の変更地区を除き、豊春村合併時の十二ヶ村の大字名をそれぞれ称呼している。かかることから各地区の世帯数等は均等でなく多少の差は有るが、生活環境の特異性を生かした地域活動を行い成果を上げている。

事業は、公共諸団体との連絡調整・消防講演会及び保存会の維持管理・福祉増進・環境衛生に関する事項を主体とする。

主な行事としては、主催・共催にて、演芸の集い・各種講演会・地区体育祭・福祉まつり・交通防災防犯活動の協力実施・文化パラエティイン豊春にては餅搗き大会と称して、臼、杵等一式を取り揃え地区長交替で搗き上げ料理クラブ員の応援を得て、参加者にサービスし大いに喜ばれ、長蛇の列を作る。

役員も会則により選出されその任に当たる。定例会議も月一回行う。地区長研修親睦旅行も年一回和気あいあいの中に行われる。

藤ヶ丘自治会 活動報告



藤ヶ丘自治会長
信夫 済治

が伝統として地域住民に引き継がれています。私達住民はこの事を誇りに思っております。

最近の改善例としては、会則の一部改訂・年間活動計画の中に月日・会議時間の明記、用紙をA四サイズに統一しています。

専門部 部門毎の主な活動内容
会計部 納涼大会、敬老の集い、年間支出報告資料作成
総務部 赤十字、募金、礼状作成・公報、自治会会議等回覧

防災部 防災訓練企画実施・市防災訓練参加・街灯の設置等
清掃部 春秋側溝清掃企画実施・地域クリーン作戦企画実施

厚生部 敬老の集い企画実施・豊野地区体育祭参加
交通部 納涼祭交通指導実施・地域パトロール参加
婦人部 納涼祭踊り企画指導・集会所貸出管理
児童部 春、秋交通安全指導・ラジオ体操会・おたの

しみ会実施(全員参加)
書記・会議資料作成・記録・回覧資料作成

- 一、防災訓練
- 二、自治会全域清掃
- 三、納涼祭・七夕祭
- 四、豊野地区体育祭
- 五、市主催防災訓練
- 六、96かすかべクリーン作戦参加
- 七、敬老の集い企画・参加
- 八、地域の催物参加
- 九、地域まちづくりに参加

編集員氏名

春日部市地区長会	会長	山崎 攻志
	副会長	小林 保
	副会長	飯塚 一夫
	副会長	斉藤 茂
	副会長	本橋 正雄
	副会長	中島 光男

発行日 平成九年四月一日
発行者 春日部市地区長会
事務局 春日部市役所
自治振興課